

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会〒049-4393 北海道瀬棚郡
今金町字今金48−1TEL:0137-82-3488
【No.80】H22(2010).8.23 記念すべき80号は、
「北海道教育大学との連携事業」特集増刊号です。

今金っ子が教育大生を体験
～2010 IMAKANE ドリームバスツアー～

北海道教育大学と今金町との連携の具体的な実践のひとつとして、ドリーバスツアーに参加した子ども達６０名（小学生５５名、中学生５名）と指導者１０名の計７０名が７月２８日、北海道教育大学札幌校での「大学生体験プログラム」に参加しました。研修バスがキャンパスに到着すると鹿内教授をはじめ、担当してくれた大学生達が笑顔で出迎えてくれました。





全体でのオリエンテーション終了後、鹿内教授によるワークショップ『できるかな？逆さま迷路「鏡映描写（知覚・運動学習）」』の導入段階で鹿内先生より「めあて」の問いかけがあり、子ども達から「むずかしても、あきらめないで、がんばる」、「がんばって、うれしくなる、わかる、しんぽするようになる」などの応答があがり、図形や文様の鏡映像をなぞるという初めての作業で遠近感系が逆になった未体験の条件の中で子ども達は悪戦苦闘しながらも興味深い体験学習となりました。





２講目は、２グループに分かれて、学生たちが今金町の子ども達のために何度も打ち合わせを重ねてくれたプログラムが行われました。１つは、英語を楽しく学ぶクラスで、小学３年生から４年生２３名を対象とした「英語でしゃべろう！～ポテトじゃなくてポティトゥ～」で、担当は、基礎英語学習開発専攻英語グループ４年生の皆さん４名です。もうひとつのグループは、小学５年生から中学生までの３７名を対象とし、１枚の折り紙が何かに変わる！さらにみんなで作ると何かに変わる「ドリームキャッチャー～夢をつかむ工作の世界～」で、教育臨床専攻３・４年生５名の皆さんです。子ども達は、学生達のプログラムに目を輝かせ折り紙に取り組んでいました。





大学生体験の最後のプログラムは、「学食体験」です。子ども達は、未来の大学生を夢み、少し背伸びをしながらキャンパスでの学食の流れと味を体験しました。



札幌校は、試験期間にもかかわらず対応をいただき、鹿内教授をはじめ学生のみなさんには心から感謝を申し上げます。教育大学札幌校は、教師を目指す大学ですが、このプログラムに参加した子ども達が大学に興味や関心をもって、それぞれ今後の学校生活をおくってもらいたいと願っています。



学生チーフ原田紗穂里さん(3年)からメッセージ

ドリームバスツアーでは、本学へお越し下さり、どうもありがとうございます。私たち学生は、貴重な教育実践の機会をいただいたこと、そして、今金町の熱心な教育事業に参加させていただけたことを大変感謝しております。また、参加者のみなさんにとって得るものがあるということが私たちの目標です。講義や学食は、みなさんにとってどんな体験になったでしょうか？ ぜひ、また教育大学へ遊びにきてくださいね！お待ちしています。



今金「あそび」と「まなび」の どきどきサマーキャンプ

～今金町まなび環境生活習慣改善 推進プロジェクト事業～

８月１５日（日）～１７日、２泊３日の日程でクアプラザピリカレストハウスを会場に１７名の児童が参加し、宿泊型の学びプロジェクトが実施されました。


開校式

指導者は、今金町の特別支援教育支援員５名と教育大学の鹿内教授のゼミ学生（３年生）７名そして教育委員会スタッフにより開催されました。この事業のねらいは、規則正しい生活リズムの習得や親子や世代間の交流を通じ、家庭での学び環境づくりをねらいとしています。


アイスブレーキング

具体的なプログラムは、教育大生が企画したアイスブレーキングでのグループづくり、アクロステイック（名前で自己紹介）、オンリーワンのマークづくり（消しゴムで世界に１つの自分スタンプを作る）。

親子料理教室では、森栄養教諭の指導のもとに「カレーライスづくり」。


アクロスティック

また、夜７時からは、北海道教育大学教授の鹿内信善教授による親学タイムで「学びを支える家庭の力」と題して保護者を対象とした講演会が開催され、お盆にもかかわらず５０名を超えるみなさんが、熱心に耳を傾けました。


親子料理教室

鹿内先生は、１月１２日にも本町で保護者を対象として「学びを育む交流の輪～協同と連携がいきる教育のつくり方」と題して講義とグループワークをしていただきましたが、今回はそこから発展した家庭教育の大切さについてパワーポイントを使い分かりやすいお話をいただきました。また、７月２８日実施された今金町ドリームバスツアーでの今金町の子ども達が北海道教育大学札幌校での大学生体験の模様をビデオにまとめ具体的な実践として大学での子ども達のプログラムを通して子ども達の変化や実践の裏付けとなる教育心理学について紹介をいただき、家庭や地域が子どもを育てていくことの大切さを再確認させていただく夏の夜の貴重な「親学」となり、今後の本町教育への示唆をいただきました。


親学タイム


火おこし体験

また、夕食後子ども達は、特別支援教育支援員が企画した「学びタイム」で学年別のプリントに挑戦し１日目の日程を終えました。

２日目は、クアプラザピリカの林料理長を講師に「朝食講話」が行われ、朝ご飯の大切さについて学びました。朝の読書タイムの終了後、文化体験活動として小田島文化財保護委員長、宮本学芸員の指導のもと「火おこし体験」が行われ、自分達のおこした火で昼食づくりが行われ、古代人の生活をミニ体験しました。


行灯づくり

午後からは、教育大生の企画で野外に出て葉っぱなどの様々な物を半紙にこすりだしての「行灯（あんどん）づくり（フロッタージュ）」が行われ美利河の大自然をそれぞれの作品づくりを通じて満喫しました。夕食は、世代間交流と併せて栄養サークルのみなさんの指導による料理教室が開催されました。


世代間交流「栄養サークル料理教室」

最終日は、この事業のまとめとなる「ふりかえり」が行われ、友だちに賞状をあげよう！、３ヶ月後の自分への手紙、教育大生の作成したスライドショーなどのプログラムが行われ、子ども達は、たくさんの体験と感動をお土産に学生達や支援員との寝食を共にした３日間の宿泊プロジェクトを終えました。みんなご苦労様！


ふりかえり

